

介護労働者の待遇改善を求める意見書

介護労働者は、人間の尊厳にかかわる崇高な仕事をしているにも関わらず、低賃金、長時間労働など、その劣悪な労働環境から離職者も高く、待遇改善が待たなしの課題となっています。早朝から深夜までの重労働の上、人手不足で疲れても休暇も取れない。こうした厳しい現実直面して、このままでは生活できない、将来に希望が持てないと、耐え切れず退職していくケースが多発しております。

今後、団塊世代の高齢化などにより、少なくとも今後10年間で40万人から60万人もの介護職員の確保が必要とされておりますが、介護に携わる人たちがいなくなれば介護保険制度も立ち行かなくなり、まさに介護保険制度の根幹を揺るがす問題です。

介護に携わる人たちが誇りと自信を持って仕事をできるよう、また安心して暮らせるよう、政府においては、以下の点について特段の取り組みを行い、労働条件や福利厚生の上昇に全力を挙げるよう強く要望します。

記

- 1 全労働者の平均を大きく下回っている給与水準の実態や職種や勤務形態ごとに母区し、低賃金の原因とその是正策を早急に検討すること。その上で、それぞれの介護事業者がキャリアと能力に見合った適切な給与体系が構築できるよう介護報酬の在り方を見直し、次期介護報酬改定で適切措置すること。
- 2 昨年8月示された福祉人材確保指針について、福祉・介護サービスを担う人材確保のため、労働環境の整備やキャリアアップの仕組みの構築などを早急な取り組みを進め、福祉・介護現場における指針の実現を図ること。
- 3 小規模事業所などにおける職場定着のための取り組み支援や労働時間短縮のための事務負担軽減策、さらには、事業所の労働条件等労働環境に関する情報開示など介護労働者の待遇改善のための総合的な取り組みを進めること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

2008年3月14日

名 寄 市 議 会